平成２４年度理科で遊ぼう会の事業報告書

総括と活動一覧

（事業内容）

前年度に引き続き相模原市との協働事業、理科実験支援事業、出前授業（担当課；学校教育課）と寺子屋（担当課；こども施設課）が主要な事業であった。

出前授業は３校（藤野北小：4 年生１クラス、5 年生１クラス、内郷小：4 年生１クラス、5 年生１クラス、清新小：5 年生５クラスを３日に分けて実施。計９クラスであった）で、緑区の小規模校 2 校と、中央区の大規模校１校で、全体としての規模は前年より小さくなった。授業内容に関しては、こどもたちには新鮮な授業であったようで、活発な質疑が行われた。２校からは子供たちからの手紙が寄せられ、児童が強い印象を受けた様子がつづられていた。

寺子屋は７月から１月までの間、20 か所のこどもセンターに於いて、各１回主に小学校低学年の児童を対象に、理科の味付けをした遊びを実施した。今年度は実施月が偏らず、ほぼ一月に３回の程度に配分することが出来た。

帝京大学小学校のサイエンス教室は通常の実験教室２回（５年生１回、５，６年生合同１回）を行った。実際には窓口になられた先生が代わり、意思の疎通が容易でなくなった、考え方が当初とは変わったように見えた。本年１月に本年度を持って理科で遊ぼう会による土曜サイエンス教室は終了とすることにした。窓口になられた副校長、並びに校長には挨拶状をお送りした。

以上の他の事業は今年度は今までになく充実していたように思う。箇条書きにすると；

・上溝中学の地域ふれあいの集い：モーター作成。
・矢野先生の仲介で教職員の任意団体である理科部の先生方６人及び教科書会社の若手の方２人と我々との教材に関する交流会を宮上小学校で行い、モーターと燃料電池に関する実験会を行った。若手の先生方に我々の活動を知っていただけたのはとてもよかったと思う。
・上記に参加された小山小学校の先生が我々の活動を紹介されたことがきっかけで、小山小学校サマースクール（夏休み３日間）を担当した：Ｙ字振り子とポンポン船
・環境情報センターの夏休み環境学校に於いて、「土の虫の世界をのぞいてみよう」～土壌生物から自然の豊かさを考える～を行った。一緒に参加した親御さんからの授業企画と内容への賛辞が印象深かった。
・サポートセンター主催のボランティア・チャレンジスクール
中学高校生の受け入れを２回、参加中学高校生は子どもセンターでの授業にも参加した。
・星が丘公民館で１件（糸電話、風船電話、キツツキ）、城山公民館で２件（糸電話、風船電話、キツツキとモーター）を実施。
・上鶴間小放課後児童教室で１件（バルサ紙飛行機）を実施。

・南大野小学校のカルチャースクールで１件（モーター作り）実施。
・サポセン主催のイオンフリースペースにおけるＮＰＯ見本市に参加し、
　小さなこども達を対象にアルソミトラモデルグライダーのデモンストレーション。
以上の授業において最も留意した点は、子供たちに観察と考察、そして自分の言葉で積極的に発言をするよう促すことであった。

（会の運営）
役員会　平成 24 年 7 月 9 日、市民活動サポートセンター　15；00－17：00
・運営委員会を設置
・副代表のほか、生産管理、学校関係、教材開発の役割の分担を決めた。
・本年度で協働事業が終了するので、平成 25 年度の事業に関する準備を始める必要があり、外部資金獲得への努力、実施小学校決定に今後も学校教育課の協力が得られるよう努力することが話し合われた。
・前年度までに実施した出前授業への子供たちからの手紙の取り扱いを議論。抜粋を冊子にまとめることとした。
・インターネット上の会の情報が散逸気味なため、入口を一つにしてそこから各情報へ到達する案を話し合った。
書面役員会　平成 25 年 3 月 29 日　平成 23 年度決算書の誤転記の修正が認められた。
正会員にはＭＬにて修正部分を配布した。
定例作業会；ほぼ月 2 回実施され、そこで会員間の意思疎通が図られたこともあって、運営委員会も頻繁に行われる必要はなかった。
書面運営委員会　平成 24 年 10 月 14 日　報償費の一部改定について（協働事業は従来のままにするが、協働事業以外の報償費は前年比８０％とすることにした。）
運営委員会　平成 25 年 3 月 22 日
次年度運営体制に関する準備的相談
市民・行政協働運営が他ファンド「ゆめの芽」は当たったが（後述）、規模を縮小して従来同様、小学校、子どもセンターでの事業を続ける。材料費は受益者からいただくものとする。
学校教育課、子ども施設課の協力を得て授業案内の配布をする。その準備打合せを行った。
小学校児童からの感想文抜粋小冊子第一版完成　平成 24 年 10 月 29 日
　上装丁（糸綴じ）　10 部、　　簡易版（ホッチキス中綴じ）70 部
インターネット上に「理科入り口」の設定；インターネットに発する理科で遊ぼう会の情報を一か所から到達できるように設置した。
市民・行政協働運営型市民ファンド「ゆめの芽」ステップアップコースに応募
・応募事業名　こども達の自主精神を育む理科実験支援事業
・平成 25 年 2 月 17 日　公開プレゼンテーション　45 万円の予算請求

・平成 25 年 3 月 5 日　　採択通知受領
・ステップアップコース　応募 11 件、採択 10 件。決定総額 1,614,000 円、
・理科で遊ぼう会は 35 万円が認められる。決定総額の約 22%、全体で最高額。
減額分 10 万円は要求した材料費に相当するので、これは受益者負担を見込んだ結果と受け止める。作成した小冊子は強い武器となったと思われる。
・以下のコメントが付きました。
「子どもを対象にした意義ある活動です。活動を維持継続するため、地域や関連団体（ＰＴＡ等）との連携を意識した運営の検討をお願いします。」

サポセンより感謝状を授与される　2 月 9 日　市民活動サポートセンター10 周年記念集会。
懸案事項：運営委員会の中に事務局的機能を取り込んだが、どうしても個人に負担が偏り、難しい、面があった。今後も当面、運営委員会がその役割を兼ねる形で進める。
授業担当者の募集に於いては、今年度は参加者を決める際に集まりにくい面があって、苦労があった。

（協働事業の運営）
協働事業は最終年度でほぼスムーズに行事が遂行された。あえて言えば、子どもセンターの中には、事業の趣旨とは異なり、多くの子どもの面倒を見てくれれば有難いというような観点で依頼するセンターもあり、難しい面もあった。

（会員の異動、実施授業テーマ）
平成２３年度終了時に正会員は１４名であったが、年度末にお辞めになる方 1 名、年度内に新たに加わった方 6 名で、終了時には 19 名である。賛助会員は 5 名（不変）であった。協力会員には新たに一人加わった。また、賛助会員、協力会員のなかには、授業や教材作り、冊子作り、チラシ作りに積極的に参加くださる方もあった。
授業テーマの開発改良も活発に行われた。
モーター、Ｙ字振り子は安定状態にあると言える。電池、ヘロンの噴水に関しては更に改良がくわえられ、格段の進歩がなされ、授業の進捗が飛躍的に改善された。
子どもセンターでは新たに風船電話、アルソミトラ型種モデルグライダーが加わり、子どもセンターの行事に使われたが、風船電話は風船が割れやすく、問題を残した。種モデルグライダーは子ども達も比較的落ち着いて授業が効果的に行われた。